

平成15年度市場モニタリングテスト結果

機構の技術支援のもとで 「消費生活センターが実施した試買テスト」

(独立行政法人製品評価技術基盤機構)

独立行政法人製品評価技術基盤機構では、製品の安全性及び品質を把握するとともに、消費生活センターのテスト技術向上に資するため、テスト技術等について当機構の支援のもとで消費生活センターが商品テストを実施する制度(「消費生活センターテスト支援」)を設けています。

この制度により、平成15年度に実施したテーマ及び消費生活センターは次のとおりです。
なお、テスト結果の詳細については各消費生活センターにお問い合わせください。

家庭用生ゴミ処理機 <北海道立消費生活センター>

家庭用ゴミ処理機は、環境に対する配慮や自治体の補助金制度などにより、最近、広く普及してきています。処理の方式には乾燥式とバイオ式があり、バイオ式は臭いの関係から野外設置型が主流でしたが、最近では、乾燥式と同様にバイオ式でも室内で使用できる商品が販売されています。そこで、室内で使用できる家庭用生ゴミ処理機について、表面温度、絶縁性等の安全性、ゴミ処理能力、経済性(電気代)、騒音・臭いの程度等の性能についてテストを行いました。併せて、モニターによる使用調査やアンケート調査も行いました。

この結果、どの銘柄も安全性等において特段の問題はありませんでしたが、生ゴミを入れ過ぎると臭いが強くなる傾向があり、処理量に注意が必要であるなどの結果が出ています。また、テスト結果に基づき、使用上のアドバイス等消費者に提供すべき情報を整理しました。

省エネ型電気ジャーポット <宮城県消費生活センター>

いつでも手軽にお湯が使えることから電気ジャーポットが普及していますが、長時間通電して使用するものであることから、最近、魔法瓶(真空二重)構造のもの、断熱材で保温効果を高めたもの、タイマーで使用電力を押さえたものなど省エネ型のものが販売されています。

そこで、省エネ型を中心に電気ジャーポットについて、省エネ性、沸き上がりに要する時間等の性能、及び倒れた時の湯漏れ、絶縁性、空だき防止機能等の安全性についてテストを行いました。併せて、モニターによる使用調査、アンケート調査も行いました。

この結果、安全性等に特段の問題はありませんでした。省エネ型のものについては、省エネ効果が認められましたが、銘柄によって差が見られるという結果となっています。また、使用上のアドバイス等消費者に提供すべき情報を整理しました。

乾燥機能を付加した全自動洗濯機 < 栃木県消費生活センター >

近年、様々な付加機能を付けた洗濯機が販売されていますが、ちょっと乾燥したい等の消費者ニーズに対応した「乾燥機能を付加した」全自動電気洗濯機が販売されています。この製品は、ヒータ付きタイプと送風乾燥するヒータレスタイプがありますが、乾燥量や乾燥能力が限定的であり、従来の電気洗濯乾燥機にも、電気衣類乾燥機にも属さないものです。消費者にとっては、分かりにくいところです。

そこで、乾燥性能や仕上がり具合等についてテストするとともに、動作中に誤ってふたを開けた時の安全性や、騒音性、消費電力等についてテストを行いました。併せて、モニターによる使用調査やアンケート調査を行いました。

この結果、安全性等には特段の問題はありませんでしたが、しわが付き易い傾向があるという結果となっています。また、使用上のアドバイス等消費者に提供すべき情報を整理しました。

電気ストーブ < 滋賀県立消費生活センター >

近年、電気ストーブでは、ハロゲンランプを使用した扇風機型のものが人気を集めています。曇りが焦げた、発火した等の事故も報告されています。

そこで、ハロゲンランプを使用した電気ストーブを中心に、各部の温度上昇、転倒時 OFF スイッチの作動性等の安全性テストや、消費電力、放射温度（暖房力として）等の性能テストを行いました。また、消費者に対するアンケート調査も行いました。

この結果、安全性等には特段の問題はありませんでした。また、使用上のアドバイス等消費者に提供すべき情報を整理しました。

カートリッジタンクのある石油ストーブ・ファンヒータの安全な使い方

< 京都府消費生活科学センター >

カートリッジタンクに給油後、タンクのフタの閉め方が不十分であったためタンクをストーブ本体に設置する際に灯油が漏れ、消し忘れたストーブの火で着火し火災となった事故が毎年発生しています。そこで、高齢者を含む男女のモニターにより、給油する際の行動パターン、タンクのフタの締め具合等を調査するとともに、消火操作を行った時及び自動消火装置（火を消さずにカートリッジタンクを抜いた場合に自動的に消火する安全装置）が作動した時の完全に消火するまでの時間等をテストしました。

この結果、給油の際にストーブの火を消さないモニターや、タンクのフタを開ける時のことを考えわざと緩くしめる高齢者のモニターがいることなどがわかりました。また、使用上のアドバイス等消費者に提供すべき情報を整理しました。

家庭用ヘアドライヤー<福岡市消費生活センター>

ヘアドライヤーは、家庭の必需品となっていますが、本体とコードの接続部（根本部）から発火した等の事故が発生しています。そこで、コードの折り曲げに対する耐久性等安全性についてテストを行いました。併せて、温風温度、風速、消費電力等の性能テスト、モニターによる使用テストや消費者に対するアンケート調査を行いました。

この結果、安全性に特段の問題はありませんでした。また、使用上のアドバイス等消費者に提供すべき情報を整理しました。